

# 「白神山地ブナ林モニタリング10周年記念シンポジウム」

## プログラム

13:30 開演

挨拶 環境省東北地方環境事務所

基調講演

「白神山地の過去と未来」 齋藤宗勝 盛岡大学短期大学部教授

事例報告

「白神のブナ林は変化しているのか? ~10年間のモニタリング結果から~」 中静透 東北大学教授

「私たちが行う十二湖ブナ林モニタリング」 深浦町立岩崎中学校

「自然を見つめる目 ~できることから始めよう!~」 小関孝一 ウォッチング青森代表理事

(休憩)

パネルディスカッション

松井淳(奈良教育大学教授)、齋藤宗勝(盛岡大学短期大学部教授)、中静透(東北大学教授)、

小関孝一(ウォッチング青森代表理事)、檜垣大助(弘前大学教授)、蒔田明史(秋田県立大学教授)

総括 齋藤宗勝 盛岡大学短期大学部教授

16:30 終演

(内容は都合により変更する場合があります)

## 出演者プロフィール

齋藤 宗勝(さいとう むねかつ): 基調講演、パネリスト「白神は出会いの場」

…盛岡大学短期大学部教授、白神山地ブナ林モニタリング調査会会長。

1944年 韓国ソウル市生まれ。専門は、植物生態学及び藻類の生理生態学。

1968年然ヶ岳でアオモリマンテマ、ミツモリミナグサを発見したのをきっかけに様々な植物調査に携わる。

中静 透(なかしずか とおる): 事例報告、パネリスト「白神、いちばん気楽になれる広がり」

…東北大学教授、白神山地ブナ林モニタリング調査会副会長。1956年新潟県生まれ。専門は森林生態学、生物多様性科学。

大学時代にブナを研究すると決めて以来、長いあいだ森の姿を観察してきた。タイ、マレーシアなど広く世界をフィールドとして、熱帯林や温帯林における森林のうごき、樹木の生活史、生物多様性が維持されるしくみなどについて研究している。白神山地のブナ林調査にも長年従事。

深浦町立岩崎中学校(ふかうらちょうりつしゆさきちゆうがっこう): 事例報告「調査をとおして白神の価値を体感し伝えたい」

…2005年6月より、専門家の指導のもと、世界遺産白神山地のふもとに広がる津軽国定公園十二湖ブナ林を科学的に調べる調査を開始した。2005年世界自然遺産会議(弘前市)にて調査結果を発表、2006年度森林・林業技術交流発表会(秋田市)にて中学・高校の部で優秀賞受賞。

小関 孝一(こせき こういち): 事例報告、パネリスト「身近な活動から自分ができることから始めよう!」

…ウォッチング青森代表理事、白神山地ブナ林モニタリング調査会事務局等を勤める。1953年青森県生まれ。自然保護教育の普及と地元で根ざした活動、子どもの原体験が必要不可欠と自然観察会を軸に活動中。

松井 淳(まつい きよし): モデレーター「白神の植物のゆたかさ、水的美しさにシビレました」

…奈良教育大学教授。1955年京都市生まれ。専門は植物生態学・保全生物学。カエデの繁殖に興味をもち、性表現の追跡調査をおこなってきた。湿原植物の生態研究や保全にも関わっている。白神山地のブナ林とは八甲田植物園にいた頃に環境省のモニタリングに参加し、以来継続して関わる。

檜垣 大助(ひがき だいすけ): パネリスト「変化する自然を見逃さないこと」

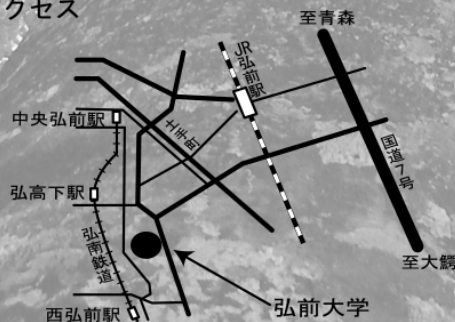
…弘前大学教授。1953年札幌市生まれ。専門は、砂防学、応用地形学。

東北各地やヒマラヤ発展途上国を対象に、土砂災害軽減と山地環境管理について調査・研究を行う。日本有数の地すべり地帯白神で、地すべりが作り出す森林生態系の多様性を調べている。

蒔田 明史(まきた あきふみ): パネリスト「多様で気長な森の時間を感じていたい」

…秋田県立大学教授。1955年京都市生まれ。専門は、植物生態学 環境教育学。八甲田を主な調査地としてササの一斉開花を巡る長期継続調査を行ってきた。ササのように平面的に広がる植物=「クローナル植物」の生態に特に関心あり。秋田県立大学設立の年に白神山地ブナ林モニタリング調査が始まった!

## 地図・アクセス



JR弘前駅から

・徒歩 約15分

・バス 約10分(3番乗場小栗山線「弘前大学前」下車)

・タクシー 約5分

弘南鉄道

・弘高下駅から 徒歩約5分

・西弘前駅から 徒歩約7分

問い合わせ先: 環境省 白神山地世界遺産センター(西目屋館)

TEL 0172-85-2622